

2012年6月9日

鎌倉芸術館 大ホール 13:00 開場 14:00 開演

#### 鎌倉交響楽団 団長

山本 賢二

皆さま、本日は、ようこそおいでくださいました。昭和38年に誕生した鎌倉交響楽団は、ここに満50年を迎え、記念演奏会の第二弾として第99回の定期演奏会を開催する運びとなりました。

50年間、毎年2回の定期演奏会を欠かさす継続し、今日の99回を迎えることができましたのは、何よりも会場に足を運んでいただいたお客様の熱いご支援があってのことと、深く感謝しております。



戦後の鎌倉の音楽文化の向上に大きく貢献された音楽評論家で、鎌響の設立発起人の一人であられた故野村光一氏は、よく「プロであれアマであれ、あらゆる演奏組織中で交響楽団ほど維持していくのに最難なものはない」と言っておられましたが、鎌響の場合、鎌倉市はじめ地元の皆さまのご支援をえながら、団員一人ひとりが地道な努力を重ねてこれ等のハードルを一つひとつクリアーし、今日では、優れたマエストロのもと、ほとんど自前のメンバーだけで大編成の交響曲などを演奏することができるようになりました。また、鎌響を楽しみにして来ていただけるお客様が毎回安定的に千名前後を数え、ありがたいことに当日券を購入してお入りいただく方が300~400名もいらっしゃいます。先の3月3日のファミリーコンサートにおいていただいたお客様が、アンケートの中で「創立50周年おめでとうございます。地元にオーケストラのあることの素晴らしさを常に感じさせていただき、感謝します。」と書いておられましたが、このようなお客様の温かいご声援を支えにして、今後ますます温かく、より良い音楽を聴いていただけるように研鑽を重ねてまいりたいと存じます。

#### 鎌響50周年 最初の定期演奏会を迎えて





前回の、50周年事業開幕記念ファミリーコンサートは、3月3日の雛祭りの日、鎌倉市の中学生、槙和馬さんによるすばらしいショパンのピアノコンチェルト1番が演奏され、1453人という多くの方々に聴いていただきました。

本日の第99回定期演奏会では「鎌響からの名曲プレゼント」という副題で冒頭にはワーグナーの「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲を高らかに演奏いたします。

これに続くチャイコフスキーのピアノコンチェルトでは、若手ピアニストとして非常に注目されている菊地裕介さんを独奏者にお迎えしました。また、本日のプログラム後半には、新たな世界に渡り、新たな構想を膨らませていったドヴォルザークの交響曲第9番「新世界より」を演奏いたします。私どもも、50年にわたる先人たちの努力と地元鎌倉の方々をはじめとした多くの方々の温かいお心を胸に抱いて、新たな世界に向かって第一歩を踏み出してまいります。

そして50周年事業の一つの頂点ともなる、次回の第100回定期演奏会には、人類の究極の理想と再生を歌うマーラーの「復活」を地元の合唱団と共にお送りいたします。私どもは、何よりもます、心のこもった、より良い演奏を目指して精進いたす覚悟ですので、ご期待ください。

」~」~」~」~」~」~」~」~」~」~」~」 創立50周年記念 」~」~」~」~」~」~」~」~」~」~」

鎌倉交響楽団第99回定期演奏会

### 鎌響からの名曲プレゼント

指揮:山上 純司

ワーグナー Richard Wagner

楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲

チャイコフスキー Peter Ilyich Tchaikovsky

ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 作品23

ピアノ: 菊地 裕介

第1楽章 アレグロノントロッポ エモルトマエストーソ - アレグロコンスピリート Allegro non troppo e molto maestoso - Allegro con spirito

第2楽章 アンダンティーノセンプリーチェ - プレスティシーモ クァジアンダンテ Andantino semplice - Prestissimo Quasi Andante

第3楽章 アレグロ コンフォーコ Allegro con fuoco

#### ~~~~ 休憩~~~~~ Intermission

ドヴォルザーク Antonin Dvorak

交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界より」

第 1 楽章 アダージョ - アレグロ モルト Adagio - Allegro molto

第2楽章 ラルゴ Largo

第3楽章 スケルツォモルトヴィバーチェ Scherzo, Molto vivace

第4楽章 アレグロ コンフォーコ Allegro con fuoco

#### 指揮 山上 純司



1960年水戸市生まれ。東京藝術大学音楽学部指揮科卒業。同大学院音楽研究科指揮専攻前期修士課程終了。指揮を汐澤安彦、遠藤雅古、渡邊曉雄、ヴィクター・フェルドブリル各氏のもとで学ぶ。大学院2年次より作陽音楽大学に勤務、オーケストラ、吹奏楽及び指揮法を担当。1994年3月まで専任講師、助教授を務めた。1990年より2年間北西ドイツ音楽アカデミー・デトモルト音楽大学に留学。カール・ハインツ・ブレメケ、ペーター・ヤコビー教授らのクラスで、主にオペラの指揮を学ぶ。また、モーシェ・アツモン、ガリー・ベルティーニ、ミヒャエル・ギーレン、ミクローシュ・エルディリー各氏からも指導を受ける。留学中より、ルーマニア国立オラディアフィルハーモニー交響楽団、チェコの西ボヘミア交響楽団、ポーランドのフィルハーモニア・ズデッカ等の定期演

奏会に出演した。日本では、これまでに群馬交響楽団をはじめ、ニューフィル千葉、東京シティフィル、神奈川フィル、名古屋フィル、大阪フィル、オーケストラアンサンブル金沢、岡山フィル、瀬戸フィル、広島交響楽団、札幌フィル、広島交響楽団、札幌交響楽団等を指揮している。またオペラの分野では「フィガロの結婚」「コシ・ファン・トゥッテ」「魔笛」「椿姫」「リゴレット」「アイーダ」「ラ・ボエーム」「蝶々夫人」「カルメン」「こうもり」等を、バレエの分野では、「白鳥の湖」「くるみ割り人形」「ドン・キホーテ」等を指揮している。2003年1月、ハイドンの「無人島」で新国立劇場に初登場した。

#### ピアノ 菊地 裕介

1977年東京生まれ。1994年日本音楽コンクールで第2位。高校卒業と同時に、パリ国立高等音楽院に入学。ローム・ミュージックファンデーションより助成を受け、高等課程を経てピアノ研究科を修了したほか、5つの一等賞を得てピアノの他に歌曲伴奏、作曲書法の高等課程を修了。2003年からはハノーファー音楽大学ソロクラスでさらに研鑽を積む。 2009年ドイツ国家演奏家資格を取得。 皆川紀子、加藤伸佳、ジャック・ルヴィエ、アリエ・ヴァルティの各氏に師事、マリア・カナルス、ポルト、プーランクコンクール優勝、またジュネーブ、ベートーヴェンなど、数多くの国際コンクールに入賞する。



2007年に東京藝術大学の講師に招かれ帰国後、「菊地裕介メシアン生誕100年プロジェクト・幼子イエスに注ぐ20のまなざし、アーメンの幻影全曲演奏」「東京オペラシティB→C」など精力的な活動を展開。2枚目のCDアルバム「B-A-C-H」(DENON)に収録された、バッハ「無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番、ピアノ独奏版」は、ブゾーニ編の「シャコンヌ」に加えた独自の編曲により全曲を完成させたもので、全音楽譜出版社より自身の解説と校訂により出版された。また2010年にはオクタヴィア・レコード(TRITON)よりオール・シューマン・プログラムによる5枚目のアルバム「ダヴィッド同盟舞曲集」を発売し、収録曲の校訂譜も出版している。フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、ポルトガル、チェコ、ポーランドといった欧州の多くの国々でリサイタルを開催、また多くのオーケストラと共演を重ね、また室内楽では清水和音氏、永野英樹氏とのピアノデュオやオーボエの巨匠モーリス・ブルグとの共演など、いずれも好評を博している。演奏活動の傍ら現在は東京音楽大学にて、後進の指導に当たっている。

#### ワーグナー 楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲

Richard Wagner (1813-1883)

ドイツの作曲家・劇詩人であるワーグナーは、ヴェルディと並んで19世紀の最も偉大なオペラ作曲家と称せられ、最近は実際の発音が近いということで「ヴァーグナー」と記されることも多いですが、彼の歌劇的作品には現在では「タンホイザー」などの「歌劇」と「トリスタンとイソルデ」以降の7作品に対しての「楽劇」、の2つの呼び方があります。ワーグナー自身はこの「楽劇」という名前をあまり好ます、呼称に区別は付けませんでした。ただ、序曲から始まり、レチタティーヴォ(抑揚のあまりない状況説明など)とアリア(旋律的な独唱曲)を中心として物語が進行していく従来のイタリア歌劇に対する批判の気持ちから、ライトモチーフ(誘導動機・基本動機)を全体的に使うことにより劇の流れを阻害しないようストーリーを作り上げていこうとしました。歌劇「ローエングリン」にはその兆しが見られ、序曲の代わりに前奏曲が登場し、ワーグナーの序曲としては「タンホイザー」序曲が最後になっています。そしてこの「楽劇」の流れはRシュトラウスやプフィッツナーなどに継承されています。

ワーグナーは自分のすべての歌劇、楽劇の台本も書きましたが、「ニュルンベルクのマイスタージンガー」は初期の作品を除けば唯一の、神話・伝説から離れた、実在の市民を主役にした三幕の喜劇です。「マイスタージンガー」とは中近世のドイツのギルドの称号の一つで、「マイスター」は「親方」の意。ドイツ各地を巡っていた吟遊詩人が都市に定着したこともあり、厳しい階級制度と規律によって与えられた職人最高の肩書きの「親方」も「歌」の力を教養として持っていることが求められた時代でもありました。

これはその頃の最高のマイスターシンガーの物語で、若い騎士ヴァルターが見初めた町娘のエヴァが資産家の父親によって「歌くらべ」の優勝者と結婚させられることを知り、親方ザックスの助けでエヴァを獲得するまでのストーリーです。そしてこの前奏曲は単独で演奏されることも多い曲です。因みにワーグナーは、名指揮者でピアニストであるハンス・フォン・ピューローの前夫人でリストの娘のコジマと結婚しましたが、彼女はワーグナー自身の強い希望で建設したワーグナー専用の「バイロイト祝典劇場」で毎年夏に行われる「バイロイト音楽祭」の継続に尽力し、その息子の作曲家・指揮者・演出家のジークフリート・ワーグナーも、孫たちも、その後を引き継ぎ、何年かの中断はありましたが「音楽祭」は現在も毎年行われ、バイロイトは「ワグネリアン」と呼ばれる熱狂的なワーグナー心酔者の聖地となっています。

#### チャイコフスキー ピアノ協奏曲 第一番 変ロ短調 Op.23

Peter Ilyich Tchaikovsky (1840-1893)

チャイコフスキーはロシアのウラル地方の鉱山技師の次男として生まれ、音楽好きの両親ではあったものの、特には音楽教育は受けておらず、14歳の時にコレラで母を亡くし、この頃から音楽に目を向けピアノを習い始めました。法律学校を卒業し法務省官吏となりましたが、その頃はどの道へ進もうかという岐路に立っていた時期で、結局音楽の道を捨て切れず、5年後には職を辞して音楽院に入り本格的な作曲の勉強を始めました。卒業と同時に、開設段階のモスクワ音楽院の教授として招かれ、教える傍ら作曲家としての地位も徐々に確立していきました。

彼はピアノ協奏曲を生涯3曲書きましたが、後の2曲は演奏されることがほとんどなく、この第一番だけが最も人気のあるピアノ協奏曲の一つとして沢山のピアニストによって演奏されています。ホルンの雄大な響きの有名な序奏から始まるこの曲も、作曲後すぐ国内で初演、という通常の流れを取ることが出来す、完成してから1年後、アメリカのポストンでドイツ人の手によって初演、という多難なスタートとなりました。彼は、この曲の完成後、名ピアニストでもありモスクワ楽壇の重鎮でもあったモスクワ音楽院初代校長ニコライ・ルビンシュタインに好意的な批評を期待して聴かせたところ、「ピアニストにとって演奏出来ないひどい陳腐な曲」「独創性がない」などと酷評され、「私のアドバイス通りに書き直してく

れたら初演してもいい」とまで言われましたが、チャイコフスキーは苦労して作ったこの曲に自信を持っていたので訂正を拒否しました。そして初演してくれる他のピアニストを探し、ドイツでよく彼の作品を演奏してくれたハンス・フォン・ピューロー(ワーグナー欄参照)にお願いし、たまたま演奏旅行の予定だったポストンで初演をして喝采を博し、その後のモスクワでの初演も大成功でした。この初演の3年後、N.ルビンシュタインはチャイコフスキーに謝罪、その後自分でも何度も演奏し、この曲を世に知らしめる大きな役割を果たし、チャイコフスキーとも仲直りして、チャイコフスキーは彼の告別演奏会のためにピアノ三重奏「偉大な芸術家の思い出に」を作曲したほどでした。(N.ルビンシュタインが酷評したのは、こんな大作を作るのにチャイコフスキーが、名ピアニストと自他ともに認める自分に作曲のアドバイスを求めなかったことに立腹したのではないか、と言われております。)

#### ドヴォルザーク 交響曲 第九番 ホ短調「新世界より」Op.95

Antonin Dvorak (1841-1904)

「新世界」って第五番じゃなかった?と首を傾けているご年配の方も多くいらっしゃるかもしれません。 私もすーっとそうでした。ということで、これについて、最初にご説明しておきたいと思います。

当のドヴォルザークは、第1曲目の交響曲の楽譜を廃棄したつもりでいたので(実際には作曲コンクールに応募し入賞しなかった楽譜を返却してもらえなかった)「自分の交響曲は全部で8曲だけ」という認識をずーっと持っていました。しかも生前に出版されたのは第5曲目以降の5曲だけで、20世紀中頃まで「ドヴォルザークの交響曲は5曲」とされていました。また当時の出版社の意向もあり、作曲順ではなく出版された順番で番号が与えられたので、最後の「新世界より」も「第五番」とされてきました。没後約20年の1923年に第1曲目の交響曲の楽譜も発見され、全部で9曲ということがはっきりし、1950年代後半の全曲の整理編集の際に作曲順の番号に改められ(下記参照)、晴れて「新世界より」も「第九番」として認知され、現在に至っております。

#### 【第一番→第六番、第二番→第七番、第三番→第五番、第四番→第八番、第五番→第九番】

ドヴォルザークはボヘミア(今のチェコ)の小さい村の宿屋兼肉屋の息子として生まれましたが、家業 を継がせようという親の意思に逆らってオルガン学校に入学し、卒業後スメタナの指揮するチェコ国民劇 場管弦楽団にヴィオラ奏者として入りました。その後リスト、ブラームス、ビューロー(前述)などの知 遇を受け、ブラハ音楽院教授であった1892年にはニューヨークのナショナル音楽院院長として招かれ、 帰国後ブラハ音楽院院長またその後オーストリアの終身貴族院議員にもなりました。ナショナル音楽院か ら招へいを受けた時にはドヴォルザークは行くべきかどうか大分悩んだのですが、いざ行ってみて「音楽 の救世主、ついに現る!」などと大歓迎を受け、仕事にも順調に入ることが出来ました。そのアメリカ滞 在の3年の間には、代表作となっている「チェロ協奏曲」、弦楽四重奏曲「アメリカ」、そして「新世界 より」などを作曲しました。学校の夏休みを利用して、アメリカ国内をいろいろみて見て回り、また生徒 の一人が歌う美しい黒人霊歌、ブルースからボヘミアの音楽との共通点を感じ、郷愁にもかられ、新作の 意欲へとつながったようです。渡米半年後の1893年春に「新世界より」が出来上がりました。この曲の 中にはアメリカに古くからあるような旋律もいくつか現れますが、これはドヴォルザークの「作曲家とい うのは自国の民謡の精神を曲に反映する義務がある。」という持論と前述の郷愁から来ていると思われま す。またこの曲は「力強く変化に富み形式的にも無駄がなく、ベートーヴェン以降これほど完成度の高い 交響曲はまれである。」とも評され、後に弟子のフィッシャーが歌詞をつけ「家路」という歌で多くの人 に愛され親しまれる第二楽章のあまりにも有名なイングリッシュ・ホルンのメロディは「イングリッシュ・ホル ン、又はアルト・オーボエ用として書かれた旋律の中で最も美しいもの」とも言われています。

この「新世界より」という副題については、当時のヨーロッパの人々はアメリカのことを「新世界」と呼んでいたこともあり、アメリカでのこの曲の初演の直前に、ドヴォルザーク自身が「新世界アメリカから祖国のボヘミアに向けてのメッセージ」の気持ちで付けたもの、と言われております。 (Violin K.K.)

#### 「創立50周年によせて」 松野 美智子

このたびは鎌倉交響楽団創立50周年おめでとうございます。 半世紀の 長きにわたって着実に進歩を遂げ、現在のような内容も規模も大きな団体 に成長され、30数年前の鎌響一団員としてはただただ瞠目するばかりです。 これもひとえにその時々を支えてこられた団員の皆さまと、鎌響の活動をい つも温かく支援してくださった聴衆の皆さまの、音楽への情熱と鎌響に寄せ る勢い思いよるものと存じます。

私が鎌響に入ったのは1980年でした。鎌響の団員募集を見て、先に入団をしたチェロ弾きの連れ合い(チェロを持つと途端に気弱になる… と自他ともに認めている。)に、" 怖そうなご婦人方がいるから一緒に行かない? " と誘われたのがきっかけでした。練習に出かけてなるほど納得の存在感のある3人組のご婦人たち。でも、それよりもびつくりしたのが、時には立ちあがって檄をとばすトップの存在でした。それまで在籍していた地方のアマオケは、学校の



先生方と研究機関の研究員で構成されていたので、いってみればアカデミックというか静かな雰囲気で、練習後の飲み会も皆無でしたので1日目にしてカルチャーショックを味わいました。このコンマスのH氏は頭脳明晰で熱意の塊とは後に分ったのですが暫くは目立たないように一番後ろの席で頭を低くして弾いていました。この時の指揮者は、前田幸一郎先生。美しい日本語で、たたずまいもご指導も端正そのもの。その当時は、先生が宗教音楽の分野で第1人者でいらっしゃること、加賀の前田家の流れをくんでいらっしゃることなど知る由もなく、さすが"鎌倉"と感心したのを覚えています。

その当時のメンバーは20人に満たなかったのではないかと思いますが、個性豊かな方々の集まりでメンバーのつながりも深く、練習後の飲み会にも練習にも負けず劣らず熱心でした。酔うと"トラのパンツは…"と豹変するH氏を筆頭に、それらしいアラビア語や韓国語、はたまた中国語を披露しては皆に語学の達人と思わせてしまうFgの名手 I 氏、フランス語でイカは?"Ash jupo-n"ではタコは?"Ash hapo-n"出題者が、実は、フランス語の大家であるが故に、このジョークを本当のことと信じてしまったメンバーもいるくらい話術の達人のU氏等々多士済々で音楽を共通の基盤に、普段の生活では知り合えないであろう方々と本当に豊かな時を過ごさせていただきました。

オーケストラとしては、形が出来てこれからという発展の緒に就いた時期だったと思いますが、その大事な時期に前田先生に引き続き、指揮者としてスタートラインに着かれたばかりの若く意欲にあふれた古谷誠一氏にご指導をいただけたことは、鎌響の音楽的な礎を築く上で大きな財産であったと思います。コンマスをさせていただいた10年間、団員の皆様にいつもあたたかくサポートをしていただき、次の世代に無事バトンタッチできましたことを何よりの幸せと感謝しております。次の50年どのように発展していかれるのか楽しみに見守ってまいりたいと存じます。



古谷先生の指揮による第59回定期・Vn独奏 天満敦子氏・コンサートミストレス 松野美智子氏 (1992年 旧鎌倉公民館分館)

#### 「鎌響の青春」

#### 上田和男

御成小の音楽教室の入り口に桜の花が揺れ、服部者人と伊沢理事長がタバコをくゆらしていました。78年に初めて鎌響を訪ねた日のことです。あの日ののどかな陽射しと、お二人の温顔はその後の鎌響での幸せな日々を予感していたように思われてなりません。

その頃の鎌響は、私を誘ってくれたバイオリンの高梨君を初め、蜂谷(三宅)さん、小栗(中橋)さん、ビオラの笠井君、チェロの飯田君、フルートの金子(高橋)さんと打楽器の高橋君といった若いメンバーが次々と入団し、毎週のように飲み歩いていました。

そのうちほどなくして、古谷(誠一)がやってきました。彼は大学オケの親しい 友人ですが、鎌響に呼んだのは私ではありません。最初、普段の練習指揮を、そのうち幼稚園協会や、市内 巡回演奏会の指揮を任されるようになり、79年の秋からは定演前半のプログラムを指揮するようになりま した。以後10年間、前田先生の風格を古谷のしなやかで精緻なトレーニングが支える時代が続き、鎌響 のアンサンブルは目に見えて向上していきました。

私自身は入回2年目から20年近くにわたって運営のお手伝いをすることとなり、とくに最初の十数年は世話役として滅私奉公と言うしかない鎌響漬けの日々を過ごしました。新しい試みが次々と実現するのが面白く、81年はニューイヤーコンサートを創設し、82年には創立20周年を記念して鎌響初めての第九を企画しました。

第九は練習の難しさもさることながら、旧中央公民館の狭い舞台にソリストと合唱団を乗せるのが一苦労で、そのために特設の張り出し舞台を作り、舞台上にはコンクリートブロックとビールケースを運んで雛段を補いました。そう、真夏の市内巡回演奏会といい、第九のブロック運びといい、あのころの鎌響は汗の記憶と切り離せません。

93年に鎌倉芸術館が完成し、今度はブロック運びもなく、古谷先生の指揮の下、はるかにまともな第9 を演奏しましたが、共に汗をかくことはなくなりました。 幼稚園協会演奏会や巡回演奏会で特製のTシャッを汗だくにし、練習後には小町通りの長兵衛で浴びるほどビールをあけた日々、練習を重ねればオーケストラはうまくなると信じていた日々が、今ではまるで遠い星の出来事のように思えます。その星では今でも伊沢理事長を囲んで永遠のどんちゃん騒ぎが続いているに違いないのです。(敬称略)

(1978-2002年在籍、チェロ)



前田先生とチェロの面々・2ndブルト外側は上田和男氏



第40回定期演奏会に向け、手作り山台での第九リハーサル(1982年旧鎌倉公民館分館)

#### 「50年は長かった・・・・」吉田 龍夫

50周年おめでとうございます。半世紀と言えば人間の一生から言えば大変な長さ、鎌響が発足した1963年に社会人1年生になった私も、もうこんなじーさんになってしまいました。そして今、2003年から「バッハ教会カンタータ連続演奏会」なるものを実施し、予定した20回の演奏会を終えました。(あと2回の「アンコール演奏会」をやりますが。)

教会カンタータとはどんな音楽なのか。バッハが奉職していたライプ ツィヒルター派教会の礼拝で演れていた音楽ですが、ここでそれについ て述べる紙面はありません。以下は私の自慢話です。「あの野暮なやつが いつからキリスト教にかぶれたのか」・・・鎌響で私をご存知の方は皆ソウ思わ



れているに違いありません。でも、この私でもこれを10年も続けると、今ではすっかりかぶれているのです。 バッハの音楽とキリスト教とドイツ語に。当初は仰る通りそうではありませんでした。何やらバッハのカン タータなるものにフルートの美味しそうな曲が沢山あるらしい。鎌響にいてもこれをやることは無いのだ からひとつ引退でもしてこれをやってみようか・・・・と、誠に俗っぽい理由で始めたのです。やってみると 確かにおいしい、いやおいしすぎる・・・・オケの中では1分も続くソロなどあり得ませんが、カンタータでは まるまる1 曲、長いものでは8分間も吹き続ける、しかも有名な美人のソプラノ歌手を相手に(もちろん テノールもアルトも)・・・そんな曲がごろごろあるのですから。しかし、バッハならずともバロック音楽は通 奏低音の和音に乗って奏でます。バロック音楽の原理、原則や修辞学に基づいていて、ドイツ語の歌詞はキリ スト教の教えを説くものです。これらがさっぱり判らずでは人前に出られませんよね。仕方なしに「勉強」し ました。学校、仕事、鎌響ではしたこともない勉強をです。ドイツ語の辞書や聖書を買い、バッハやバロック 音楽の本も読みます。大変です。1人では無理となるとお近くの松野さんに教えを請います。知り合いを伝 って牧師先生の解釈を聞く。そうそう、当初はまねごとの指揮までしたので、何回か古谷先生をお訪ねしま したよ。そしてこのカンタータ、今の私たちの心にもぴったりと響くのです。生きる人々の苦しみを理解し、そ の悩みを癒す、そして最後には大きな喜びを歌い上げるのですから、バッハ音楽の素晴らしさと合間って 大きな感動を呼ぶのです。拙い演奏でも、お客様の反応は極めて良いのです。50人も集まれば御の字と 思っていたのが、先の20回目(最後)の演奏会では逗子のホールが満員になりました。「もっと続けて下さ い」との声にどう答えようか窮しています。でも、でもです。私の出たがりも、もう限度でしょう。よぼよぼし た姿を人前には出せませんから・・・・2~3年前には朝の1時間の散歩は1日のウォーミングアップでし たが、今はこれやるともう1日がそれで終わりなのですから。 いや、いや50年は長かった・・・・・。

### Implant Center KAMAKURA



田中歯科御成町

インプラント・審美歯科 鎌倉駅西口みずほ銀行向かい・勝烈庵 2 階 TEL&FAX 0467-24-0882 http://www.tanaka-dc.com/

#### 「破綻することがないように・・・」 鈴木 美緒 (マネージャー)

鎌倉交響楽団に入団して、早いもので十数年が経ちました。自分ではまだまだ若手のつもりでいましたが、今では偉そうに団のマネージャーの仕事をしています。

運営に関わるようになって、見えてきたことが色々あります。よく鎌響は組織がしっかりしていると言われますが、いざ運営側に回ってみるととんでもない。次々と問題が発生し、その度にバタバタと走り回っている感じです。 演奏会が終わる度に「ああ、今回も無事終わった。本当に良かった・・・」と一息つきます。 マニュアルでも作ればよいのでしょうが、仕事が多岐にわたり一筋縄ではいかす、どうまとめればいいものか・・・。 でも、いつかやります。いや近いうちに。

運営の仕事は簡単ではありません。でも、私が出来るんだから、誰でも出来ます。「出来ている」というのは少々自惚れているかもしれません。出来ていないかもしれないけど、それでも兎に角こなしています。 私達アマチュアは、演奏を楽しむだけでは活動できません。運営も自主的に行わなければなりません。同じ人だけが、少数の人間だけが長く運営を担当することは限界があります。いつか破綻するときがくる。

鎌響がこの先の50年、100年と継続して活動していくためには皆が運営に興味を持ち、参加し、分担していくことが必要です。そのためには、マネージャーの仕事も、もっと効率よく整理されたものに変えていかなくてはいけない。どうしたら、もっと見通しがよくなるのか。どうしたらもっとマネージャーの仕事が分かりやすく楽しいものになるのか。鎌響のために、自分のために、模索中です。

#### 「 労働の汗 & 冷や汗 」 タ 城 信 彦 (マネージャー)

マネージャー兼打楽器奏者、ということもあって、楽器を運搬し、舞台セッティングをし、演奏会の準備をすることが主な仕事になっています。まず普段の練習の時は、全パート楽譜や譜面台、それと打楽器を積みっぱなしにしてある「団車」を運転して練習場に向うのですが、鎌倉は観光地ですので、春の桜のシーズン、夏の海水浴シーズンには渋滞を読んで出かける必要があり、練習時間には絶対に遅れないための工夫が必要です。最近は、団車があって楽にはなりましたが、私が入団した頃は、まだ車がない時代で御成小学校の練習の後に、ご近所の団員の方の家までティンパニーを御神輿のように担いていた時代もありました。でもこれだけではありません。練習会場によっては、エレベーターが小さいために楽器が乗らないこともあり、またティンパニー神輿の登場になります。こんなこともあって、練習前は、肉体労働での汗を、また練習中は冷や汗をかくことになります。

通常、演奏会の前日の夜に舞台のセッティングをしています。金曜日の夜になることが多いので、仕事が長引いたりで団員の集まりが悪い時などには時間がかかってしまいます。しかし与えられた時間の中できちんとセッティングが終わると、気持ち良く練習がスタート出来るものです。

また今年の秋には、弊団50周年記念の最後を飾るマーラー第二番「復活」を演奏しますが、鎌響でも、また芸術館でも過去に演奏されたことのない曲です。しかも通常より大編成のオーケストラ(ティンパニー7台とか、大太鼓は2台とか、打楽器も多いのです。)に加えて、表からは見えない舞台裏での演奏があること、150名ほどの合唱団がいることなどで、芸術館の舞台にどのように入れ込むのかが大変難しい曲です。そのため去年から図面を見ながらあれこれ考えています。今年の秋には、演奏をお聴きになるだけではなく、舞台上の300名弱のセッティングも楽しみにして頂ければ、と思ってます。 いつも多くのメンバーが集まり、楽しく練習、本番を迎えられるように出来れば、と考えています。

#### 50周年記念事業委員会 ロゴマーク制定責任者

#### 水上 清

本日の演奏会プログラムやチラシに、いかにも以前からあったような顔をして納まっている鎌響ロゴマークにお気づきの方もいらっしゃると思います。実は創立50周年事業の一環として、団員およびその家族から作品を募集し、団員の総意で制定した新しい鎌倉交響楽団のロゴマークなのです。

募集に当たって決めたテーマは、「50年の歴史と、100周年に向けてさらに飛躍する鎌響をイメージ して、自由な発想でロゴマークを作ってください。」というものでした。

このとき寄せられ15点の作品を下欄に掲載いたしましたので、ご覧ください。音楽以外にも才能豊かな我が団員達の美的センスに溢れた具象・抽象? の様々な作品が並んでいます。これらの応募作品を練習場に掲示し団員に投票してもらい、一番投票数の多かった作品が、本日のブロ

作成者はビオラの中村文江さん(写真)。応募時の説明には「歴史ある鎌倉で音楽を愛する人たちの集まりを表現するため鎌鸞を楷書で表現し、かつ弦楽器の f 字孔と "フォルテ" を重ね合わせ、さらに鎌倉交響楽団の国際的な飛躍も込めて英字表現を横につけました」とあります。

『みなさんに愛されるコミュニティオーケストラ・鎌響』 そんな願いを込め、これからの鎌響の顔としてみなさまに親しんでいただければと願っております。





グラム表紙に載せている鎌響ロゴです。





























#### カーカーカーカーカーカーカー パート紹介(1) カーカーカーカーカーカーカーカーカ

鎌響創立50周年記念演奏会にあたり、鎌響の各パートをご紹介いたします。 紹介文は、それぞれのパートの方が執筆しましたが、執筆にあたり、

- パートを「色」にたとえたら何色?
- ・パートのセールポイントは?
- ・今日の演奏曲目のきかせどころは?

を、できるだけ盛り込むこととしました。

パートは、1 stヴァイオリン、2 ndヴァイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバス、フルート、オーボエ/イングリッシュホルン、クラリネット、ファゴット、ホルン、トランペット、トロンボーン/チューバ、打楽器の合計13パートです。 どのパートも、よく特徴をとらえ楽しく書かれています。

#### 1st. Violin

#### ファーストウァイオリン

ファーストヴァイオリン。世間的にはオーケストラの花形と呼ばれるパートかもしれません。皆さまにとってはまさに羨望の的?(笑)。でもでも実際のところは結構苦労も多いんです。 まず、主旋律を担当することが多く、演奏中の休みも少ないのでオケ内ではたぶん、パート譜が一番「重たい」です。 音が高いのも特徴。 五線譜に書かれた「電信柱」と睨めっこ、ということも多いです。

ファーストヴァイオリンの面々は、かわいらしい女性陣から渋い大人の男性陣までそれはそれは幅広い人々で構成されています。 年齢も職業、環境も違う人たちが集まった大家族のようです。 全然違う色をもった人たちも、 集まるとまるで虹のように美しい音色を奏でる、そんなパートと言われたいです\(^o^)/



そして今後は、60周年に向けて更に年輪を重ねた深みのある演奏が出来るように練習に励んでいきたいと思います。今日、最後にお贈りする「新世界より」・・・・ドヴォルザークは、当時最新のメカであった機関車のオタクであったそうです。散歩のついでに近くの駅に行って、結局一日中機関車を眺めていることもよくあったとか。この曲もゆっくりと動き始めて加速し疾走する蒸気機関車の描写のように聞こえたりもするんです。D51(デゴイチ)のように正確なリズムかつ力強い演奏ができるか、どうぞご注目下さい!

耳鼻咽喉科、アレルギー科、神経耳科(めまい診療)

# 芋川骨燥科クリニック

鎌倉・小町壱番館ビル3階 院長 芋川英紀 電話 (24)7273

#### 2nd。Violin セカンドヴァイオリン

【パートの雰囲気を色で例えたら何色?】どんな色にも合いやすくて何色にも染まる、淡いパステルカラー。高音と低音の間を埋める役割を担っている私達は、ファーストヴァイオリンとハモったり、ヴィオラと独自の動きをしたり、低弦と一緒に伴奏をしたりと、常に周りに気を配り、みんなに合わせているのです。【セールスポイントは?】 謙虚で控え目、思いやりのある人が多く、目立たないがみんなをしっかり支える『縁の下の力持ち』であることに誇りを持ちつつ、それを心の中にしまっているところ。この性格は演奏面以外でも発揮され、つい裏方の仕事を引き受けてしまうんです。【60周年に向けた抱負】練習での出席率が高く、大所帯の割には退団する人も少ない我がパート、10年後も今のメンバーが全員元気に演奏を続けていられること、更に、平均年齢が「10歳



上がらないこと」が目標です。それには私たちが10歳者けないか、若い人が沢山入ってきてくれるか。どちらも叶ったら嬉しいです。【今日の聞かせどころは?】たまに出てくる目立つところは、性に合わず、ちょっと苦手です。その代わり、一生懸命やっても周りにかき消され、努力が報われないような所こそ燃えるんです!燻し銀のように地味だが味のある演奏ができたらと思っていますので、是非メロディー以外にも耳を傾けてみてください。

Viola ビオラ

聴衆のみなさんが「ビオラ」を意識されることは 殆どないでしょう。オーケストラの中では、旋律を 奏でることは少なく、高音と低音の間を埋めるような 地道な作業が殆ど。敢えてビオラに注目しても「あ れ?何やってるんだろう?」と見えるのではないで しょうか。しかし、ビオラはオケの響きを充実させる 役割を担っており、そのような楽器の性格を反映し てか概してメンバーは地味で目立たない人が多い ですが、それでいて一家言を持っています。



ビオラを色に例えるならば、「色というよりも他パートの『色』を引き立たせる」と言えるでしょう。そんなビオラパートですが、やや年齢層が高いほうに傾斜していますけど、年齢構成も下は20歳代から上は70歳代と多彩です(音程も多彩、と他パートから揶揄されますが、それはまあさておき・・・)。この10年でメンバーは少しずつ変わってきましたが、昔ながらの響きを維持しており、今後も変わらないでしょう。今回取り上げる『新世界』では、珍しいことに、旋律がいっぱいあります。こんなとき、普段は目立たない立場に慣れているせいか「ハラハラドキドキ、どうしよう・・・」と緊張の極みです。清水の舞台から飛び降りんばかりの勇気で演奏するビオラバートに注目ください。最大の見せどころは、、、、ヒントだけ書いておきます。ドボルザークはビオラ奏者でした。そしてドボルザークは大の機関車マニアでした。機関車みたいな旋律を耳にしたら、舞台に向かって右手にご注目あれ!

#### Cello FII

チェロパートは現在、休団者を除き13名で活動しています。パートの特色は何と言ってもまとまりの良さ。平日は異なる立場でそれぞれに活躍しているメンバーですが、週末の練習では心を一つにして音楽を愉しんでいます。また、親睦を深めるため、新たな仲間が加入したり、メンバーが還暦を迎えた際にはお祝い会を行います(※パート写真は4月の還暦お祝い会)。上記の13名のうち既に還暦を迎えたメンバーは4名ですが、この方々が皆チェロの名手で、パートリーダーの飯田さん、二川さんと共に我々若手組(と言っても私は40代)を引っ張ってくれています。鎌譽団員の平均年齢は他オーケストラと比較すると高めですが、実はこうした先輩方の音楽に対する真摯な姿勢が、鎌嚳全体を支えてくれているのです。10年後の60周年にはさらに円熟味を増した演奏が



出来るよう一丸となって精進してまいります。

さて、楽器としてのチェロは低音部を支えるだけでなく、時には心に残る旋律を奏でるなど、オーケストラの花形楽器の一つでしょう。本日演奏する曲の中にもチェロが活躍する場面を随所に見つけることができます。こうしたチェロバートの雰囲気を色に例えると"鮮やかな茶色"・・・・オーケストラを森とすれば、チェロは他の低音楽器と共にオーケストラの基礎部分をしっかり支える肥沃な土と言えましょう。オーケストラはその豊かな土に根を張って見事な森を繁らせるのです。さて本日はどのような音楽の森を披露できますか?!

#### Contrabass

重く、すっしりしたコントラバスの音を色に例えたら?そうですね"レンガ色"でしょうか。図体がでかくて扱いにくく、弦ひとつ押さえるにも力が要るし、細かい音符は苦手。曲の中でも目立つことは少ない楽器ですが、なぜかこの楽器の魅力にハマるとやめられず、みんな永く続けているのがコントラバスのメンバーたちです。年齢と団歴の平均で団内パート比較をしたらおそらく1位となると思います。

#### コントラバス



アマチュアオーケストラではコントラバスの人数不足はどこでも悩みの種のようですが、当団のコントラバスは毎回の演奏会をほとんど正団員だけでこなすことができています。練習ごとの楽器運搬などメンバーが助け合って、参加しやすく、続けやすい環境を作るように努めているせいかと思います。現在のメンバーが元気で活動を続け、次の10年の記念演奏会のときにも全員ステージに立っていることを目標にしたいと思います。ただ、それだけだと平均年齢がまた上がってしまいますので、ぜひ若い団員にも追加で入ってもらいたいですね。さて、地味な楽器ですが、本日のメインプログラム、ドヴォルザークの新世界交響曲で、第二楽章の終わり、レンガの暖炉の前で静かに眠りにつくかのような温かい和音を奏でているのは実は私たちコントラバスです。あとでこれをお読みになって「あら、ほんとに眠ってしまっていて気付かなかったわ。」という方、いいのです。その雰囲気こそドヴォルザークとコントラバス弾きたちがお届けしたかったものなのですから。

#### Piccolo & Flute ピッコロ & フルート

【1.パートの雰囲気は何色?その理由は?】

人生パラ色のフルートパートです。オーケストラの一員として演奏できる喜びを日々、感じています。

#### 【2. 今のパートのセールスポイントは?】

フルートは、オーケストラの中で一番高い音域を担当しています。同じフルートの仲間には、ピッコロという小さく可愛らしい楽器があって、フルートよりも更に高い音を出します。フルートの音色は、七色で美しい情景や小鳥のさえずり、光や影など、様々な音を表現することができます。 わたしたちフルート



パートは、それぞれの良さを認め合いながら、また互いの音を聴きあいながら、皆で支え合って演奏を楽しんでいます。

- 【3.10年後の"60周年"に向けた抱負は?】 10年後は「三世代」も夢じゃないかも
- 【4. 今日の演奏曲目でパートの聴かせどころは?】 美しいソロと絶妙なハーモニー力をどうぞ お楽しみください。

#### Oboe & English hom オーボエ & イングリッシュホルン

- 【1. パートの雰囲気を色に例えたら何色? 理由は?】 いぶし銀ー地味だけど、華やかさもいまひとつかもしれない けども"オケの華"として頑張ってます。
- 【2. 今のパートのセールスポイント】

少人数ながら、新人から中堅、ベテランまで、層の厚い人材が 揃っているのが売り。団員それぞれが自分の持ち味を出して 良いところを引き出しながら上達できるようなローテーショ ンを組んで演奏会に臨んでいます。常に前向きなところが特 徴です。

【3.10年後の60周年に向けた抱負】

パート全員が、メインのトップ奏者を務められるようになるのが目標。 どんなプログラムでも対応できるよう、技術向上を目指します。

【4. 今日の演奏曲目でパートの聞かせどころは?】

初ソロSさんのワーグナー、新人Tさんと団長Yさんの息のあったチャイコフスキー、ベテランYさん・Nさんコンピのドヴォルザーク、それぞれのボジションで気の抜けない大仕事ではありますが、一生懸命がんばりますのでどうぞよろしくお願い致します。



#### Clarinet

#### クラリネット

オケの中で目立たないボジションですが、いないとサウンドが変わってしまう重要なパートと自負してます。 このパートにぴったりの温和で落ち着いた6人が揃ってます!

① パートの雰囲気を色に例えたら?

たぶん銀色。クラの本体は黒檀やグラナディア 材で黒色ですが、キーはたいていシルバーで整然 と本体に並んでいます。派手ではないですが、き ちんとしていて確実な技術を持ったメンバーと楽 器のイメージが重なります。



② 現在のパートのセールスポイントは?

オケの「必殺?仕事人」、「職人」。演奏は冷静・沈着にこなしますが、心にいっぱい情熱を秘めたメンバーが揃っています。何をすべきか心得ていて、黙して多くは語らないけれど、お互いの距離感もバッチリというところでしょうか?

③ 今後に向けての抱負は?

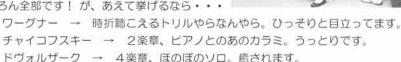
新旧交代をしながらも、今の技術レベルを落とさ すさらに質の高い演奏を目指したいです。

4 本日の曲目の聞かせどころは?

マイスタージンガーでは展開部128小節から(木管だけになるのですぐわかります)別々のことをしています。なにやらいっぱいトリルが出てきて人知れず苦労する箇所です。チャイコは、ソリストとの掛け合いの「速くて複雑なパッセージ」が満載。正確で確かな技術が要求されます。誰が吹いてもとっても怖い思いをする曲です。また、新世界では、クラリネットの音色の温かさや、やすらぎを感じていただければ幸いです。

### Fagotto ファゴット

- パートの雰囲気を色に例えると何色?】 楓色。ファッゴットは、楓でできています。
- 【2. 今のパートのセールスポイント】 ロビーコンサートなどで演奏以外の演出にいつも 全力投球なところ。小道具、衣装、振り付け得意 です!(もちろん演奏も全力投球!)
- 【3.10年後の60周年に向けた抱負 演出力を磨きます。(もちろん演奏技術も磨き ます!)
- 【4. 今日の演奏曲目の聞かせどころは?】 もちろん全部です! が、あえて挙げるなら・・・



お客様に喜んでいただけるよう、「煙突」パワー全開で演奏がんばります!



#### Horn

#### ホルン

ホルンといえば、かのロベルト=シューマンが「ホルンはオーケストラの魂である」と語ったように、その美しい音色と響きでオーケストラの音楽を包み込む存在であり、そうした演奏が求められるパートです。その一方で演奏技術では、長さ約3.8mの管にトランペット(管の長さは三分の一程度)と同じ位小さいマウスピースから息を吹き込んで演奏するために音を外しやすいという難しさを持っており、我々ホルン吹きはその難題を乗り越えるべく日夜鍛錬に励んで(四苦八苦して?)いるのです。

さて、本日のプログラムの三曲ですが、この三曲ともにホルンにとっては大変難しくもあり、またやりがいのある曲なのです。ワーグナーは、ファンファーレ風の親方の行進の動機ではホルンを金管として使っていながら、木管が親方の動機をスタッカートで軽妙に演奏するところでは、一転して木管の一部として使うなど、ホルンの持つ表現力を最大限に活かし、また、チャイコフスキーは、あのあまりにも有名な冒頭の動



機をホルンのみに委ね、ドヴォルザークに至っては一楽章の主題をホルンの3rdと4thだけに吹かせたかと思うと、四楽章には曲そのものの出来を左右かねないほど重要かつ難易度の高いソロを1stと2ndに用意しています。今回このようにやりがいのある難曲達に挑むにあたり、神奈川フィルハーモニー管弦楽団前首席ホルン奏者である森雅彦先生にパートの指導をお願いしました。さて、我々はホルン演奏の難題を乗り越えられたでしょうか?どうぞ本日は最後まで我々鎌響ホルンパートの演奏をお楽しみください。

#### Trumpet

#### トランペット

【1. パートの雰囲気を色に例えたら何色?】

ゴールド。みんな金メッキの楽器を持っているから。オーケストラの一番後ろで、いつもキラキラ(ピカピカ!?)しているから。いろいろ理由はあるけど、トランペットパートにはかつて黄金期と言われた時期がありました。今はそれに次ぐ第二次黄金期といっても過言ではありません。

#### 【2. 今のパートのセールスポイント】

現在、メンバーは女性2人、男性3人の合計5人ですが、5人中4人が一重まぶたで、しかも長男か長女なのです。だから、みんな似たもの同士。プライドが高く、目立ちたがり屋ですが、思いやり深くやさしい心の持ち主達です。そして、おじいちゃんから孫までの三世代同居のような構成も特徴の一つでしょうか。

#### 【3.10年後の60周年に向けた抱負】

10年後は、メンバーも変わっているかもしれません。でも、今の黄金期の状態を維持しつつ、演奏技術、アンサンブル技術、音楽する心を向上させ、演奏を楽しみたいと思います。

#### 【4. 今日の演奏曲目でパートの聞かせどころは?】

ワーグナーは、トランペットの重厚感ある響きに注目。チャイコフスキーは、うるさ過ぎすオーケストラ に溶け込んで、心地よく聞こえてきたら合格点です。ドヴォルザークは、トランペットのいいところはた くさんありますが、何と言っても2楽章でしょう。最初のコラールと、後半のデュエットに注目!!



#### **Trombone & Tuba** トロンボーン & チューバ

我がパートは、お局、いや、女将1人と勇者4人が集い、年々増す平均年齢をものともせず、常に活気あられるパートです。まず、個人楽器保有数では鎌響№1(各種トロンボーン他)で、プロのトロンボーン奏者として活躍中の愛娘をもつ「府川」氏。続いてパートリーダーであり、他の金管アンサンブル団体にも所属し、技術と道具を追求し続ける「桜井」氏。そして鎌響と同い年で、在籍25年を超える老兵なのに生涯若者気分の「有賀」氏。今回のステージには参加していませんが、楽器や車などあらゆる物にこだわりを持ち、第二子誕生に心浮かれる「瀬島」氏。団友ながらも鎌響在籍最年長で、チューバの大きなマウスピースを毎回、口に頬張りながら練習にやって来る紅一点「煤孫」さん。以上5名が在籍メンバーです。今回は、瀬島氏を除いた3名+チューバ1名(賛助出演)で演奏させていただきます。

【1. パートの雰囲気を色に例えたら何色?】「緑のち青、ときどき赤」(理由)演奏前は和やか(緑)な



雰囲気ですが、いざ演奏が始まると熱気(赤)に溢れ時々臨時記号(b #等)を見落として焦り(青)? 【2. 今のパートのセールスポイント】 多彩な音色と幅広い音程、美しいハーモニー。

【3.10年後の60周年に向けた抱負】年々増す平均年齢にめげず、新たな曲に挑み続ける。

【4. 今日の曲目の聞かせどころは?】 重厚な金管 サウンドと神々しいコラール。

>>>>皆様が聴いて良かったと思える演奏を目指します。 どうぞお楽しみください。

#### Percussion

#### パーカッション

#### 【1. パートの雰囲気を色に例えたら何色?】

黒という意見が多いのかもしれませんね。何でも包みこんでしまうから ということでしょうか。

#### 【2. 今のパートのセールスポイント】

これまで3人+休団1名だったのですが、ようやく新しいメンバーに加わっても貰いました。高齢化が進んでいたのですが、これで平均年齢が下がります。それに楽器運搬が楽になると思っています。ただ、100回定期のマーラーでは7人必要になるのでエキストラを加えて対応します。

#### 【3.10年後の60周年に向けた抱負】

10年前の40周年の時に、もっと音色に拘って音楽を作り込んでいき たいと思っていましたが、まだまだ不十分ですので、次の10年も同 じことを考えていきたいと思います。メンバーが少なかったこともあ るので、パート内のアンサンブルを作り込むことができていなかった のでこれを仕上げていきたいですね。

#### 【4. 今日の演奏曲目でパートの聞かせどころは?】

ティンパニーのみではなくて、小物楽器の活躍を見てください。地味なのですが、その曲に欠かせない 出番があります。どちらも古い話で恐縮ですが、「題名のない音楽会」でトライアングルの一発芸として 紹介されたとこが「マイスタージンガー序曲」にありますし、TBSのドラマにもなったシンバルの一発 が「新世界より」にはありますので、ぜひ聴いてみて下さい。

 $\sim$  paragarana paragarana paragarana paragarana paragarana paragarana paragaran





古谷 誠一 先生

### ~♪~♪~♪~♪~ 鎌響50年の歩み "御成小学校での練習風景"♪~♪~♪~♪~♪









#### 団員出演者名簿

団長: 山本賢二 コンサートマスター: 五味 俊哉 会計: 曽根 民子 ライブラリアン:石橋 智子 マネージャー: 芥川 敬、今城 信彦、桐本 圭三、鈴木 渉子、鈴木 美緒 事務局長:田中幸一

50周年記念事業委員: (委員長) 菅井 直介、(副委員長) 水上清、(委員)大内 達郎、小川 穣、片山 眞知子、

桐本 圭三、鈴木 達広、高橋 弘子、津金 勝技、中村 恵、長谷川 眞優、府川 創作

1st Violin 望月 由佳子 石川 八木 育江 岩谷 かおり 山崎

大野 河原 Viola

桐本 明美 阿部 俊哉 五味 まり 石川 鈴木 涉子 大貫 歩美 · 梶 須長

成彦 曽根 • 佐々木 敬史 戸田 良子 高橋 富岡

高村 俊彦 永井 眞由美 築山 彩子 福山 田ヶ原 恭子

本山 まり子 中村 山岡 正木 三門 サカエ

2nd Violin 青木 淑子 新井 俊成 Violoncello 石橋 • 飯田

梅原 哲郎 伊東 11/11 穣 岩本富美雄 五味 伸仁 大庭 梶 重兼 文惠 千晶 白水 佐藤 菅井 直介 重兼 関口 杏奈 志村 多田 廣之 鈴木 中橋美木子 中井 良樹

中野太一朗

有子

史子

= $\mu$ I

毛利

御室 美佐子 今回の演奏会にあたり、吉田 巧、 木原 亜土、 平林 剛、 森雅彦の各先生方にで指導いただくとともに、鈴木 美祐 氏にピアノ代奏をしていただきました。

長谷川 眞優

=]]]

馬場

督-

~~ 創立50周年記念 第100回定期演奏会 ~~ ◆「鎌響50年、そして次の100年に向けて」

2012年10月27日(土) 午後2時開演予定 指揮 横島 勝人 鎌倉芸術館 大ホール

ベートーヴェン: 「レオノーレ」序曲 第3番 マーラー:交響曲 第2番「復活」

ソプラノ: 山田 英津子 アルト: 木下 泰子

鎌響50周年記念合唱団(近隣合唱団3団体予定)

Contrabass 大内佐藤 達郎 正

中村 安孝 原 廣瀬 澄夫 晋哉

健

 福島 矢渡辺

Flute & Piccolo 曽根 美樹 弘子 高橋 裕恵 高畑 横山 かおり

Oboe & English horn 岩菜 里美 桑野 清水

亮平 辻 中橋 英純 山嵜 山本

Clarinet 内田千枝子 片山真知子 篠原 祐子

Fagotto 富三川三原

俊哉

矢吹

芥川

稲生 直莉 臼井 醫司 菊地 信子 服部 絵里子 宮崎 敏幸 和之 山崎 山田 克彦

Trumpet 三穂子 後藤 竹内 純子 津金 勝技 浜野 耕平

 福地 Trombone & Tuba 有賀 桜井 貴志 府川 創作 ※仁藤 雄貴

Percussion

高橋

前沢

養田

Harp

パートリーダー ※ 賛助出演

正彦

俊之

沙織

実

~~ 第53回 室内楽演奏会 ~~

2012年8月18日(土) 午後2時開演予定 鎌倉芸術館 小ホール 入場無料 ♪♪♪団員有志によるアットホームな室内楽演奏会♪♪♪

~~「日本語で歌う第九」(鎌倉芸術館主催)~~

2012年12月16日(日)午後3時開演予定 鎌倉芸術館 大ホール 指揮 家田 厚志

鎌倉交響楽団では、音楽が好きな仲間を募集しています。(一部パートを除く。)

演奏活動は、年に定期演奏会が2回、ファミリーコンサートが1回、室内楽演奏会が2回、依頼演奏会が数回。合宿 を年に2回行っています。資格は、高校生以上で楽器経験のある方、上限の年齢制限はありません。 連絡先:0467-25-3512 事務局 田中幸一

 $\sim$  j  $\sim$  j

第99回定期演奏会 おめでとうございます



全国にお花を送れる店 (有) 花の店 中村

〒220-0045 横浜市西区伊勢町 1-63 TEL 045 (242) 3836 FAX 045 (241) 8741 信頼と確かな技術の店

メガネの専門店

八幡宮前通り

#### 森川眼鏡店 メガネの事ならなんでも相談

- お気軽に。 遠中近多焦点レンズ
  - ●中近多焦点レンズ
  - 近近用レンズ
  - あなたに合ったメガネ を御調製致します。



### 入楽譜専門

全国すぐ 郵送します。 MUSI)CA

(株)カマクラムジカ

TEL. 0467-24-8766 FAX.0467-22-9755

〒248-0003 鎌倉市浄明寺2-1-33 http://www.kamakura-musica.com/

定休日=日曜日·祝祭日

カフェレストラン

Pause

鎌倉芸術館内一階

TEL: 0467-45-3140

FAX: 0467-45-3140



### そば処あ

大船松竹ショッピングセンタ-2階

0467-47-4336

平日 PM4:30~AM12:00

休日 PM3:00~AM12:00 大晦日·元旦 休業

c (0467)46-0080



### 小澤逢装店



金沢区並木 1丁目 2-1-114 電話 045-773-1741



HAIR SALON

## JURI et MODE

鎌倉市御成町11-2 (やのやビルBI) TEL.(0467)22-4105

### 椅子ご利用の皆様↑

手軽な移動手段としてお気軽にご利用ください。

運賃はお得でわかりやすい時間制です。距離は関係ありません。

ワコーグループ・ライフサポート事業部

045-881-5208 津金

ケアサポートタクシー お気軽にお電話ください。

中・長距離・一日貸切歓迎いたします。(料金は良心的で安心です)

ちょっとデパートへ・美・理容室へ

久しぶりに故郷へ お墓参りへ



ホームヘルバー2級取得 普通第二種免許取得 国土交通省 関東運輸局認可 関西旅二第122号



Afresh あなたに、あたらしく。

横浜銀行

鎌倉支店 TEL:0467-23-3131

鎌倉といえば・・・

# 豐島屋

鎌倉八幡宮前诵り TEL 0467-25-0810(代)

《製作・修理・毛替・販売》



TEL.045-261-5300 〒231 横浜市中区花咲町2-77 大久保ビル2F ●営業時間/AM10:00~PM7:00 (日・祭休み)



#### 医療法人 徳洲会

# 藤沢徳洲会病



いよいよ今年10月1日、茅ヶ崎徳洲会総合病院は、「湘南藤沢徳洲会病院」と改称した上で湘南シーク ロスに新築移転します。

移転に当たっては、医療スタッフの増員はもとより、最新の医療機器をそろえて、患者様にとってよ り安心安全な医療を提供できるようにします。

現在诵院中の患者様の診療情報(カルテ等)は、全て湘南藤沢徳洲会病院で引き継ぎます。現在の診 察券もそのままお使いになれますので、移転によって患者様への医療提供が中断するようなことはあり ません。ご安心ください。

## はな

看護師(1年目) 総額(平均) 303,610円 ※諸手当含む

2交替制(一部3交替制)



